



長崎県新人演奏会第50回記念プレイベント「輝ける星たちとNOCE室内楽コンサート」

別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

当協議会では、今後も皆様により一層活躍しやすい環境を整えてまいりたいと考えておりますので、引き続き格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

両文化祭の開催に向け、会員の皆様と一体となって、地域の文化資源の活性化や魅力向上を図り、情報発信を行っていくとともに、関係市町や各芸術文化団体とも連携を深め、本県の芸術文化活動の発展のために体制を強化していきたいと考えております。両文化祭を契機に、加盟団体の皆様のさらなる発展につながることを願っております。

さて、令和7年度には、全国規模の文化の祭典である「国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭」が本県で開催されます。昨年11月には県実行委員会を設立し、基本構想や事業計画の承認をいただきました。

文化や芸術は、新たな地域の魅力を創出し、豊かな人間性と自由な発想力を持つ人材を育て、地域活性化の原動力となるものです。

長崎県文化団体協議会加盟団体の皆様には、日頃から地域における文化活動の推進役として、ひとかたならぬご協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

会長あいさつ



長崎県文化団体協議会 会長
長崎県知事
大石 賢吾

CONTENTS

会長あいさつ	1	加盟団体活動報告	6
《寄稿》国民文化祭に向けて「新たな一歩」を踏み出すために	2	第18回長崎県選抜作家美術展	8
令和4年度活動報告	3	第37回長崎県地域文化章	9
《寄稿》長崎県新人演奏会第50回を迎えて	4	長崎県からのお知らせ	10
長崎県新人演奏会・第50回記念事業	5	《寄稿》ルネサンス	12

国民文化祭に向けて

「新たな1歩」を踏み出すために

この3年間、コロナ禍の中で、私たちの日常は、大きな制約を受け、様々な困難に直面し、人それぞれに影響を受け、厳しい選択を迫られた人も、少なからずあったと思います。

私自身も、幾つかの音楽団体の責任者として、そうした経験をしました。私が、40数年、実行委員長している「日本フィル長崎公演」は、1昨年、去年と、2年続けて、「中止」となり、特に去年は、直前に長崎だけが「中止」となる厳しい決定となりました。しかし、チケットを買って頂いた方に、「払い戻し」の連絡をすると、多くの方が、「コロナで、日本フィルも大変でしょう」と、チケット代金の一部、または全部を、寄付して下さいました。長年、日本フィルに、音楽に関わって良かったと、胸が熱くなりました。コロナ禍で、音楽活動の中でも、「合唱」は、特に「制約」も厳しかったのですが、去年12月、長崎交響楽団と、県民第九実行委員会は、ウクライナの状況を受けて、こういう時期だからこそ、人類愛

がテーマの「第九」を演奏しようとして、5年ぶりに「第九」演奏会を開催しました。本番でも、合唱団はマスク着用でしたが、多くのお客様から、「思い」は伝わったと喜んで頂きました。また、こういう時期ですが、長崎県音楽連盟は、オペラ「蝶々夫人」の作曲者プッチーニの故郷 イタリア・ルッカとの国際交流を深めました。

去年11月には、ルッカの劇場からの招待で、長崎の邦楽、日舞の皆さんなどが、ルッカの劇場で、演奏や踊りを披露し、大喝采を浴びました。またその直前には、400年前、長崎・西坂の丘で殉教したルッカ出身の司祭の追悼ミサに出席するために、長崎を訪れたルッカの大司教を歓迎するコンサートを開催して、喜んで頂きました。

こうした民間レベルの文化交流が、さらに、大きな絆になることを願っていますし、コロナ禍でも、「文化」を大切にする「思い」「行動」は、次の1歩につながるかと信じています。

さて、まだ先の事と思ってい



長崎県文化団体協議会
副会長
河野 英雄

た長崎での「国民文化祭」も、2年後に迫りました。去年秋には、実行委員会も発足し、今年から、いよいよ具体的な内容を検討、協議する段階に入ります。国民文化祭は、スポーツの「国体」と違って、各県対抗で、順位を決めたりするものではないため、ニュースに取り上げられることが少なく、県民の皆さんの関心も、残念ながら、高いとは言えません。しかし、長崎県にとつて、2年後の「国民文化祭」が、とても、大切な行事であることは、言うまでもありません。人口減少が進み、高齢化が加速する一方、長崎市を中心に、100年に1度と言われる街の変化。そうした中で、「国民文化祭」を契機に、長崎の「文化」を、総合的に再構築して、若い世代、次の世代に引き継ぐことは、「国民文化祭」の最大の目的の1つです。長崎の長い歴史、国際交流、長崎ならではの多様な文化を、全国に発信できるように、準備を進めたいものです。



長崎交響楽団・長崎第九実行委員会演奏会(ながさき県民文化交流推進事業補助)

写真提供:長崎新聞社

令和4年度活動報告



令和4年

- 6月19日(日)
長崎県新人演奏会(アルカスSASEBO)
- 6月30日(木)
令和4年度委員会・総会(県庁会議室+オンライン)
- 10月29日(土)
長崎県新人演奏会第50回記念プレイベント
輝ける星たちとNOCE室内楽コンサート(長崎市民会館)
ジュニアオーケストラ指導

令和5年

- 1月7日(土)～1月15日(日)
第18回長崎県選抜作家美術展 長崎会場(長崎県美術館)
- 1月25日(水)～1月29日(日)
第18回長崎県選抜作家美術展 佐世保会場(鳥瀬美術センター)
- 2月22日(水)・23日(木・祝)
第50回長崎県新人演奏会オーディション



第49回長崎県新人演奏会



輝ける星たちとNOCE室内楽コンサート



ジュニアオーケストラ指導



第18回長崎県選抜作家美術展



第50回長崎県新人演奏会オーディション

加盟団体への補助事業

- ★長崎県文化団体協議会補助金
- ★ながさき県民文化交流推進事業補助金



長崎県新人演奏会第50回を迎えて

長崎県新人演奏会推進委員会委員長
松川 暢男



長崎県新人演奏会が始まって50年目を迎えます。私自身は、これまでに数多くの感動する演奏と出会うことができ、その度毎に多くのことを学ばせていただきました。

これまでの歩みの中で改善されてきた主な事項を挙げてみますと、オーディション会場の変更、課題曲の設定・改訂、審査員の県外からの招聘、審査委員長の設定、オーディション枠の拡大、演奏会場の拡大、グランプリ賞・準グランプリ賞の設定の他、10回ごとの記念演奏会、演奏会出演者の県内での演奏機会の拡大、昨今は県内で活躍している長崎OMURA室内合奏団との共

演も企画され、互いに共演する機会も設けられてきています。また、50回以後についても改善を図っていく予定にしています。

■今後の課題としては

1. 少子化の影響で国内の大学等で音楽関連の学科、学部が減少、消滅している現状への対応策は大きな課題です。また、かなりの大学で学生確保の理由から入学時の課題曲のレベルが下がってきて、応募者のレベル格差が大きくなっていくことも心配なことです。
2. 若い方々の「音楽を学ぶ」と共に「音楽から学ぶ」ことの重要さを実感しています。これは各大学での改革と工夫を期待したいものです。また行政面、文化活動の面から見て、大学等卒業後の活動の場の確保の重要さを痛感します。近年、文化行政の中でも考慮されてきていますが、今後の更なる改革、そして充実を期待したいものです。
3. 長崎県全体の文化向上の視点に立てば、目に見える世界に拘らず、目に見えない世界への意識向上が極めて大切であると考えます。また、科学の進歩向上の有難さには頭が下がりますが、科

学万能だけでは不十分であることも強く感じています。例えば、アメリカではハーバード大学では1855年に音楽学部が設置され、他の学部の学生たちも受講できるようになっています。それは「目に見える世界だけでなく、目に見えない世界の追究こそが人類社会の発展に必要な不可欠なこと」が既に150年も前から意識され、共通認識が高まって来たことが理解されます。

【参考資料】

●ハーバード大学・音楽で「多様な価値観を理解する力」を育む ●ニューヨーク大学・音楽で「歴史をとらえる力」を学ぶ ●マサチューセッツ工科大学・音楽で「創造的な思考力」を高める ●スタンフォード大学・音楽で「真理に迫る質問力」を高める ●カリフォルニア大学バークレー校・地域文化研究の二環として ●コロンビア大学とジュリアード音楽院・単位互換から協同学位へ

【各大学音楽学部等の設立年】

ハーバード大学（1855年）、イエール大学（1890年）、ペンシルベニア大学（1857年）、マサチューセッツ工科大学（1961年）、スタンフォード大学（1947年）※（ハーバード大学は音楽で人を育てる「菅野恵理子著より」）

4. 企画、運営について

今後は、長崎県文化団体協議会が企画運営に責任を持つことは当然なが

ら、県民一人一人に浸透し県民生活の潤いを高めるためには、県内で活動する団体も主体的に関わり推進する必要性も大きな課題でしょう。約20年前に発足し活動してきた長崎県音楽連盟がその中心的役割を果たしながら、推進委員会および、各音楽団体と幅広く協議し、検討を進められることを期待したいものです。

5. 推進委員会について

この委員会は、少なくとも20数年前から設置されていて、現在の構成（ホール関係者3、学識経験者1、各部門から8、報道1、長崎市、長崎県各1計15）は、よく検討された結果だと考えられます。今後はさらに幅広い意見の集約を諮り、各音楽団体の関わりについて協議することも必要でしょう。

私自身は推進委員長としての立場で、応募者全員のオーディション時から演奏を聴かせていただきましたが、一人でも多くの推進委員の方々は時間の許すかぎり、オーディションの段階から聴いていただくことで、より具体的な意見も出され、協議がより豊かになっていくことを期待いたします。

第50回長崎県新人演奏会のお知らせ

長崎県新人演奏会は、長崎県の優れた演奏家の育成を図るとともに、本県の音楽文化の向上を目指して開催しています。2月22、23日に声楽、ピアノ、管楽器、弦楽器、ギター、打楽器の6部門でオーディションを行ない、12名の優秀賞受賞者を選出しました。この中から、6月18日の演奏会でグランプリを決定します。多くの皆様のご観覧をお待ちしています。

【第50回長崎県新人演奏会】令和5年6月18日(日)14:00～

■会場/とぎつカナリーホール ■入場料/一般1,000円 高校生以下無料

■出演予定者/第50回長崎県新人演奏会オーディション優秀賞受賞者

- ・コントラバス 森 未来
- ・ギター ローソン 乃亜
- ・ピアノ 樋口 佳祐
中武 愛佳
船津 杏樹
田端 施那
- ・ソプラノ 立石 彩乃
- ・テノール 森 雄飛
- ・マリンバ 西村 和
- ・トランペット 土谷 風音代
- ・サクソフォーン 山下 優
- ・バスクラリネット 小野 千夏

※オーディション出演順



オーディション結果発表・講評の様子

長崎県新人演奏会 第50回記念演奏会のお知らせ

長崎県新人演奏会が50回を迎えることを記念するコンサートを開催します。

■日時:令和5年11月11日(土) ■会場:アルカスSASEBO 大ホール ■入場料:一般2,000円/高校生以下無料(予定)



第40回記念演奏会の様子

県内唯一のプロオーケストラである長崎OMURA室内合奏団とともに、これまでの新人演奏会出演者が次々に登場するプログラムです。また、新人演奏会出演者と子どもたちとのワークショップ、ミニコンサートなども計画しています。詳細は、今後当協議会のウェブサイトなどご案内します。お楽しみに!!



第50回記念イベント





島原文化連盟

島原文化連盟

事務局長 平尾 明

【前史】

島原文化連盟は、昭和21年2月に「島原地方文化連盟」として発足したので、令和5年を以って、人に例えれば、77年の喜寿を迎えたこととなる。県内でも早い設立と思う。発足時に「島原地方文化連盟」と称していることから考えて、当時の島原市に限定することなく、島原半島、長崎県全体に、この種の文化団体が生まれることを期待して名付けたものと理解している。また代表者を「会長」ではなく「委員長」としていることから、当時の清新な民主主義の息吹を感じる。いずれにせよ、敗戦直後の困難極まる時に、文化国家、文化都市を目指そうとした先人の思いに驚嘆せざるを得ない。

爾来、世相の変遷に従い、「島原文化連盟」として、活動を続けている。

【年次行事】

島原文化連盟の年次行事は、概ね次のとおりである。

- 1月 新年会・年祝会
- 4月 会員小研修(バスハイク)
- 5月 宮崎康平賞小中高生文芸コンクール
- 5月 年次総会、島原半島文化団連絡協議会
- 8月 会員理事会研修会
- 10月 島原城新能、子ども狂言
- 11月 島原市民文化祭、島原市美術展に協賛

適宜、島原市民文化講座、会誌「島原文化」(隔年)、会報「ぶんれん」(年2回)発行

【近年の動向】

近年のコロナ禍の影響で、3年程度、上記の年次行事の多くを中止、代用、延期せざるを得なかった。例えば、5月に行う、年次総会も、一堂参集での総会は出来ず、郵送書面決議で代用せざるを得なかった。構成グループも同様であり、総会議案の過年度事業報告、今年度事業計画の議案も、凡そ議案の体をなさない貧弱な形式にならざるを得なかった。また、島原市(主管島原市教育委員会社会教育課)の文化事業も同様であり、他の文化団体、県においても同様で、あつたろうと思う。

加之、ロシア・ウクライナ戦争も出来し、資源調達、気候変動対策、日本経済の長期的不況(メセナ活動の低調化無関心化に直結する)など、凡そ、一島原文化連盟を取り巻く環境とは全くスケールの異なる事情があり、今後も続くであろう。日本の場合、根底には、少子高齢化、生活の圧迫感の増大があることは言うまでも無い。このような時こそ、昭和21年の設立時の精神を鑑として、徒に悲観視することなく、出来ることから実行に移すべきであろう。

【各グループの動き】

幸いに、コロナ禍の消長から、少しづつ

年次行事が行われるようになった。その例を挙げれば、

令和4年度総会は、小規模ながら、一堂参集で実施できたし宮崎康平賞小中高生文芸コンクールも規模を縮小して継続している。

令和5年新年会・年祝会も、参集者は少ないものの、従前の形式で行うことが出来た。

三年ぶりになったが、会誌「島原文化」も第17号宮崎和子(康平夫人)追悼号として発刊した。

島原七万石を踊る会は、島原市主催の愛知県幸田町への島原市民親善訪問団(島原藩松平公の本貫地であり、姉妹都市でもある)には、大挙同道し、松平歴代墓前での鎮魂奉納踊りを行い、親善の実を挙げた。

島原新能振興会では、島原城新能の第40回の節目の能を挙行し、1月には文化庁事業の金剛流お家元をお迎えしての能キャラバンの舞台を実施した。

1月13日には、会員小研修(バスハイク)として、野母崎水仙まつり、恐竜博物館を経て、県庁の議会棟の議場を拝見(写真ご参照)し、県政の心臓部を体感できた。

今後は、通常の年次行事に加えて、来るべき国民文化祭に向けてどのような貢献ができるか、長崎県文化団体協議会に協力しつつ、努力を傾注したいと考えている。

佐世保市民 管弦楽団

佐世保市民管弦楽団

事務局長 蓮田 睦美



新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが、第五類に引き下げられる。舞台芸術活動を行う団体として、以前に近い形で活動に戻るのには本当に喜ばしい。

令和二年度、三年度は、年に二回の定期演奏会を全て取りやめた。令和四年度は七月と一月に開催はしたが、七月に開催した回は二年延期した上にプログラムを変更。管打楽器の出演を極力抑えた弦楽器中心の曲目で、少し短めのコンサートとした。一月開催の方は、最初に企画してから約三年、二度の延期を経て、ようやくお客様に聴いていただくことができた。長崎在住のジャズピアニスト・小國雅香さんと「ラプソディ・イン・ブルー」を協演することを含む企画だ。

『クラシックとジャズの融合』と言われるこの曲を、私達は過去に二度、クラシックのピアニストと演奏したが、ジャズピアニストとの協演は初めての試みである。またご承知の通り、佐世保はジャズの街。小國さんは佐世保でも度々ライブを開催しておられてファンも多いので、ジャズ愛好家の皆様にも私達の演奏会に足を運んでいただくよい機会ともなる。わくわくする企画だ。

ピアニストにとって難易度の高いこの曲を吹奏楽伴奏で演奏されて間もない頃であった小國さんも、「オーケストラと協演する機会に恵まれるなんて」と、とても喜んで下さっていた。まさか、公演が二年も先延ばしになろうと

は・・・

令和三年十二月。前年度は見送られた県障害者芸術祭が、平戸で開催された。私達も約二年ぶりにフル編成でステージに立つことができた。コロナの新たな感染者は減少傾向、落ち着きを見せており、翌月の小國さんとの協演は、客席を一席ずつ空ける対策なども必要ないかな、と思えるほどであったのだが。

年が明けると、感染が徐々に再拡大し始めた。公演二週間前の最後の指揮トレ（本番指揮者やソリスト、賛助出演者を迎えるの特別練習）を終えた頃には、このまま公演を行っているのだろうかと不安を抱きつつも、ここまで来て中止することの大変さを慮って言い出せない団員が少なからずいたようだ。辛い役回りを務めてくれたのは団長。団長の要請で指揮トレ二日後に協議を行い、断腸の思いで公演中止を決めた。完成間近まで曲を創り上げた公演の突然の中止。大きな喪失感を味わった。

仲間と練習を重ね、その成果を披露することができなかった二年間。一時期は公共施設の閉鎖で個人練習する場さえ失ってしまった。心が萎えてしまいそうであった。合奏ができるようになってからも、度重なる定演の延期で同じ曲を長期間練習することとなり、それはそれでなかなか辛い。そこで私達は三週間に一度くらいのペースで「お楽しみ合奏」を行った。団員



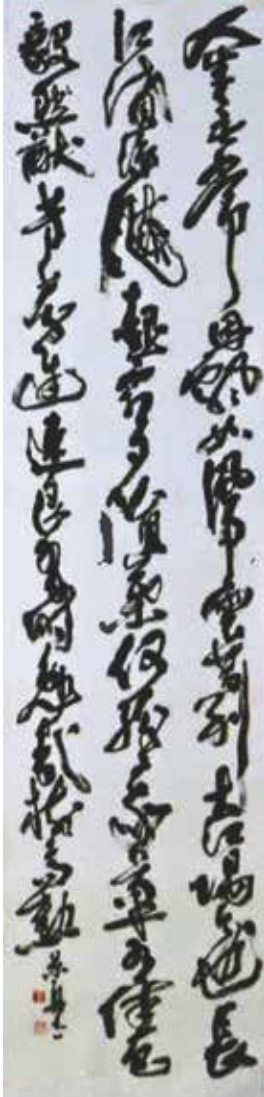
の「やりたい曲」を募り、合奏をして楽しむのである。きちんと練習して曲を仕上げる訳ではないが、仲間との合奏は、やはり幸せな時間である。

そしてこの二年間、お客様方は私達の演奏を待ち続けて下さった。二年半振りの定演の折のアンケートに、また生演奏が聴けて嬉しい、これからも楽しみにしているとの温かいお言葉が、なんと多かったことが。

音楽に限らず、生のパフォーマンスには大きな力、感動がある。鑑賞する方も、演じる方もである。生のオーケストラ演奏を皆様にお届けできる幸せを大切に、これからも活動を続けていきたい。

第18回 長崎県選抜作家美術展

【会場・日程】◎長崎会場：長崎県美術館 県民ギャラリー〔期間〕令和5年1月7日(土)～15日(日)
◎佐世保会場：佐世保市博物館島瀬美術センター〔期間〕令和5年1月25日(水)～29日(日)
【主催】長崎県、長崎県文化団体協議会、長崎県美術協会
【部門】洋画、書、工芸、日本画、彫刻の5部門
【展示作品数】長崎会場193点、佐世保会場100点
【観覧者数】長崎会場2,084名、佐世保会場494名



(書)「李夢陽詩」江副景舟



(洋画)「第二章」柏本龍太



(彫刻)「静穏」嶋谷悦子



(日本画)「風景」田崎親洲



(工芸)「蒼爽」石添石秀

長崎県選抜作家美術展は、昭和57年度長崎県文化団体協議会創設20周年記念事業として、洋画と書の2部門からなる「長崎県現代作家美術展」として誕生しました。その後部門を増やし、平成17年度から「長崎県委嘱作家美術展」、平成23年度より「長崎県選抜作家美術展」と改称し今回で18回目となります。

本県を代表する優れた作家の作品を堂に展示する県内最高峰の美術展であり、平成17年の長崎県美術館開館を機に県内最大の公

募展である県展と連携し、本県の芸術文化の振興を図ってきました。長崎会場では3年ぶりに開場式が開催され、長崎・佐世保両会場合わせて約2,600名の皆様に観覧いただきました。豊かな感性と創造性に溢れた魅力ある作品を通して、芸術の素晴らしさをご堪能いただけたものと考えております。

今後多くの方に親しまれる展覧会になるよう努めてまいりますので、お力添えいただきますようお願いいたします。

県では、県内各地において地道な文化活動を続け、地域文化の向上と発展に貢献している個人及び団体に対し長崎県地域文化章を贈り、その活動と業績を顕彰しています。

第37回は、松尾 法道氏（長崎市）、菊雅楽 孝子氏（佐世保市）、対馬日韓交流写真協会（対馬市）の1団体、2個人が受賞しました。

日韓交流は対馬から

「新時代の日韓の
虹の架け橋をめざして」

対馬日韓交流写真協会
会長

須川英之

1998年、杵岐対馬国定公園30周年記念行事の一環として、対馬2町（厳原町・上対馬町）で第1回日韓交流写真展を開催しました。開会式には韓国写真作家協会釜山支会の会長・副会長様お二人を対馬に招待し、当時の長崎県出納長様等に出席いただき盛大に開催しました。その後、対馬から帰国された韓国写真家協会釜山支会から、来年は釜山でこの交流展を開催したい旨の連絡が届き、翌1999年隣国釜山広域市で第2回交流写真展が開催され、私達は感激でした。それから約四半世紀、国境を越えた民間草の根交流写真展が始まり、毎年交互に開催してきました。

2011年からは対馬・韓国のみならず、中国・米国の4か国開催に発展し、米国ロサンゼルスでの四か国国際写真交流展（対馬日韓交流写真協会・釜山国際写真交流協会・米国「」写真作家協会・中国青島写真作家協会）に会員3名が参加しました。

韓国側の日韓交流写真展の創始者であり、現在の交流写真展に導いて頂いた朴

河源初代会長が亡くなられた時には、私と仁位顧問が韓国の法要に参列しました。また、当協会の副会長が釜山での合同撮影会中に急逝した折には、在釜山日本国総領事館・対馬釜山事務所の職員の皆様に大変お世話になりました。

教科書問題、竹島問題、従軍慰安婦問題等日韓関係の悪化した状況下にあっても、民間交流レベルにおいては、『日韓交流は対馬から「新時代の日韓の虹の架け橋をめざして」をスローガンに、毎年、対馬と韓国交互に合同撮影会と草の根交流写真展を開催してきました。この成果の一つとして、長崎県展・中央展などにおいて、2回の長崎県知事賞・県教育委員会賞等、多数入賞・入選しました。私も県勤労者美術展で労働大臣賞・県展審査員に推挙されました。当協会の仁位顧問も韓国外務大臣賞・県民表彰等を受賞。また、継続した国際文化交流により、長崎県地域文化章を受章致しました。これも偏に両国の写真交流協会の会員皆様のご支援・ご協力の賜りものとして感謝申し上げます。

おわりに、韓国大統領の4年ぶりの来日、徴用工問題での新しい光が見え始めましたが、何かとギクシャクしている日韓関係。私たちは未来志向で写真を通して対馬と隣国韓国との友好交流を続けてきました。一度たりとも不快な思いをしたことはありません。いつも楽しさいっぱいの家族ぐるみの日韓交流となっています。今後も対馬の自然・文化等を写

真で国内外に発信していきたいと思っています。



以前は市町等の推薦のみでしたが、第36回からは、地域資源の更なる掘り起こしを進めていくため、自薦も含め、広く候補者を募集しています。（文団協加盟団体からの推薦も可能です。）募集は例年11月頃です。

長崎県からのお知らせ

令和7年度の国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭に向けて

令和7年度に長崎県で開催が予定されている「国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭」について、長崎県では令和4年11月に県実行委員会を設立し、県内全市町をはじめ幅広い分野の関係団体の出席のもと、基本構想案のほか事業計画などについて承認されました。関係団体と一体となり、本県の特徴を活かした両文化祭の開催に向けて、本格的な準備を進めてまいります。

また、両文化祭を象徴し、長崎県らしさあふれる「統一名称（愛称）」と「キャッチフレーズ」を令和4年12月5日から令和5年1月31日まで募集したところ、県内外からたくさんの応募をいただきました。令和5年5月に公表を予定しており、これから統一名称等を広く活用し、両文化祭を周知してまいります。

今年度は、沖縄県で「文化芸術の花 咲いわり」

をキャッチフレーズに、「美ら島おきなわ文化祭2022」が令和4年10月22日から11月27日までの37日間にわたって開催されました。県内各地でワークショップや音楽・舞踊・演劇など、さまざまなイベントが開催され、参加された方にとって多様な文化芸術に触れる機会となり、国内外に向けて沖縄の文化芸術の多彩な花を咲かせました。

次は石川県で、「文化絢爛（ぶんかけんらん）」をキャッチフレーズに「いしかわ百万石文化祭2023」が令和5年10月14日から11月26日までの44日間で開催予定です。

今後も皆様方と一緒に県内各地域の文化資源の魅力向上や情報発信などを行い、両文化祭の開催準備を進めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いします。



県実行委員会総会



愛称・キャッチフレーズ募集ポスター画像



（開会式） 美ら島おきなわ文化祭の様子



閉会式

長崎歴史文化博物館

長崎歴史文化博物館は、江戸時代から近代にかけての海外交流に関する資料を扱う博物館です。ここはかつて「長崎奉行所」があった場所で、敷地内にはその一部が復元されています。企画展示室では、当館ならではの企画展や全国巡回展など、多彩な展覧会を開催します。

2023 年度企画展ラインナップ



- 光ミュージアム所蔵 …………… 4月22日(土)～ 6月11日(日)
美を競う肉筆浮世絵の世界
- 隙あらば猫 町田尚子絵本原画展 …………… 7月15日(土)～ 8月27日(日)
- シーボルト来日200周年記念 …………… 9月30日(土)～11月12日(日)
大シーボルト展
- 2024年
知の大冒険 -東洋文庫 名品の煌めき- ……………12月16日(土)～ 1月28日(日)

所在地 / 〒850-0007長崎市立山1-1-1
電 話 / 095-818-8366
公式HP / <http://www.nmhc.jp/>
休館日 / 毎月第1・3月曜日
開館時間 / [4月～11月] 8:30～19:00
[12月～3月] 8:30～18:00
※最終入館30分前迄

長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture

長崎県美術館

スペインのイメージ 版画を通じて写し伝わるすがた 2023年 4月 8日(土)～ 6月 11日(日)

17世紀初頭から20世紀後半までのスペインに関わる版画制作の史的展開を、200点を超える作品から概観。ゴヤやピカソ、ミロ、ダリら巨匠たちの系譜を辿りつつ、それらの影響下に英仏で制作された作品も紹介します。



ラモン・カザス
《「アニス・デル・モノ」のポスター》
1898年、
カラー・リトグラフ、国立西洋美術館

所在地 |
〒850-0862 長崎市出島町2番1号
TEL | 095-833-2110
休館日 | 第2・4月曜日(祝日の場合は翌日)
開館時間 | 10:00～20:00
(展示室への最終入場は閉館30分前まで)

長崎県美術館
Nagasaki Prefectural Art Museum

その他の 2023 年度企画展スケジュール

- イッタラ展 フィンランドガラスのきらめき …………… 7月 1日(土)～ 9月 3日(日)
- トムとジェリー カートゥーン・カーニバル …………… 8月11日(金・祝)～ 9月 3日(日)
- 浪漫の光芒 -永見徳太郎と長崎の近代 ……………10月14日(土)～ 1月 8日(月・祝)
2024年
- さくらももこ展 …………… 1月19日(金)～ 3月10日(日)
2024年
- 吉村芳生展 -超絶技巧を超えて- …………… 3月22日(金)～ 5月12日(日)
2024年

アルカスSASEBO すべての人に開かれたホールを目指して

アルカスSASEBOでは、小さなお子さま連れの方にも快くホールをご利用いただきたいとの想いから、佐世保市では2例目となるベビーケアルーム「mamaro (ママロ)」を館内に設置しました。授乳やおむつ替えの他、寝かしつけをしたり離乳食を与えたりと様々な用途にご利用いただけ、完全個室であることからママ(女性)だけでなくパパ(男性)も気兼ねなく使える点も大きな特徴です。室内は中から鍵をかけられる仕様ですが、万が一お子さまが誤って入室してしまっても一定の時間を過ぎると事務所に連絡が届く、安全性のある仕組みになっています。1階のエントランスに設置していますので、ご来館時はもちろん、いつでも気軽に安心してご利用いただけます。その他にも、聴覚障がいの方のための筆談器具、外国人の方のための指差し英会話表の設置など、年齢や国籍、障害の有無に

関係なく、誰もがホールをご利用いただける環境を整えています。アルカスSASEBOは公共ホールとして、常に市民・県民のみならずみなさまへ開かれたホールを目指しています。今回の「mamaro」の設置のように、みなさまのニーズに寄り添った取り組みをこれからも行ってまいりますので、どうぞ安心してご来館・ご利用ください。



ルネサンス

長崎県文化団体協議会副会長

小西 宗十



「男もすなる日記というものを、女もしてみむとてするなり。」

よく知られた『土佐日記』の冒頭です。紀貫之は自らを女に擬しています。当時、日記は男が書いていたのでしょう。もちろん漢文で。女も書いてみるよというのは、平仮名（女手）で書きますよ、という宣言です。日本最初の平仮名表記の文学は『古今集』です。『古今集』の撰者であった紀貫之は、平仮名表記の自在さを感じたのでしょうか。それを散文にまで利用したのです。あたかも女のふりをして。

ヨーロッパのルネサンス文学は、十四世紀から十六世紀、ギリシア・ローマ古典研究から生まれた人間中心の新しい文学運動といわれますが、なによりもその根本は、ラテン語ではな

く、それぞれの国の言葉で書かれたということが重要です。ダントはイタリア語で、チョーサーは英語で、ラブレールやモンテーニュはフランス語で、セルバンテスはスペイン語で書きました。ルネサンスとは再生を意味しますが、ギリシア・ローマ古典を滋養にしているとはいえ、それぞれの国の文学にとって、それは再生を超えて、自国文学の創生といっていでしょう。

紀貫之が先鞭をつけた仮名文学は、やがて清少納言、紫式部など女流文学者に受け継がれ、世界に冠たる平安朝文学に花開きました。漢文ではなく、日本語で書かれた文学。これこそ「ルネサンス」です。むしろ言うなら、国文学の創生です。しかも『源氏物語』は十一世紀初めには

成立しています。早いか遅いかを競っても無意味ですが、ヨーロッパよりも三世紀も先んじています。

私たち日本人は長い間中国古典で自らをはぐくみながら、文明化を目指してきました。歴史の見方、政治のやり方、物事の考え方、恋の表現。仏教伝来から『土佐日記』まで四〇〇年です。その教養に十分浸された中から、日本独自の感性の花を咲かせたのが『源氏物語』です。

ルネサンスを経て、ヨーロッパ各国はそれぞれ近代・現代への歩みを進めてきました。平安時代の平仮名文学を経て、日本は独特の文化を作ってきました。

しかし、肥料のない土の花は、やがて枯れます。文化も、教養という肥料がなければ、やがて枯れるのです。

今年は春の訪れが早いようで、桜の季節も終盤かもしれません。ようやくコロナ禍も明け

編集後記

つつあり、文化活動も「以前のように」が戻り始めています。とはいえ、前と全く同じではなく、この3年間を経験したからこそ、新しいものがみえるようになりました。

当協議会も新たなステージを目指します。加盟各団体の皆様としっかり情報交換をしていきたいので、ご意見・ご要望は自由にお寄せください。イベントの周知依頼や「文協」に載せたい記事も大歓迎です。これからも皆様のニーズにあわせた事業が推進できるよう工夫を重ねてまいります。(T)